

日時 10月3日(金) 15:30~17:30

会場 奈良県社会福祉総合センター 大ホール

女性就業率 最下位の奈良から考える ~日本国はじまりの地 橿原から はたらく女性が輝く未来~

登壇者

- 先進地報告： つかだ 塚田 まゆり (長野商工会議所 副会頭、ダンススタジオブロードウェイ 代表、善光寺世界遺産をすすめる会 議長)
- コーディネーター： こやす みわ 小安 美和 (株式会社Will Lab 代表取締役、奈良県こども・子育て推進アドバイザー (ジェンダー平等推進担当))
- パネリスト： はらだ きょうこ 原田 杏子 (五條メディカル株式会社 代表取締役、社会福祉法人奈良県共同募金会配分委員、橿原商工会議所 女性ビジネス研究会 会員)
- もりもと ともか 森本 知加 (株式会社南都銀行 営業店次長)
- さとう まさひろ 佐藤 雅大 (佐藤薬品工業株式会社 代表取締役社長)
- 司会： うえだ きょうこ 上田 恭子 (有限会社STAR VOICE 代表取締役、一般社団法人日本マナーOJTインストラクター)

I. 先進地報告

女性がワクワク幸せに働ける社会をめざして~NAGANO働く女性会議~

塚田 まゆり

NAGANO働く女性会議ができるまで

ニューヨーク留学での経験から、自由に語り合える場作りと郷土発信の重要性を知り、帰国後、スターバックスの誘致や「NAGANO検定」立ち上げに奔走しました。その中で、自ら発案発言していくことが実現への近道であり、地域全体と一緒にムーブメントを起こすことが何よりも重要であるという考えに至りました。そして女性初の商工会議所副会頭就任を機に、女性が生きやすく働きやすい組織について発信できる、女性たちの社会参画を促す場所づくりのために「NAGANO働く女性会議」を設立したのです。



NAGANO働く女性会議の取り組み

NAGANO働く女性会議の役割は、働く女性の問題・解決について、スピード感と危機感を持って話し合える場を提供すること。そして、すべての働く女性が主役となって問題・課題を話し合い、男性も含め一人ひとりが「ワクワクする働き方」を考え実行し、社会に発信していくことです。

- 座談会・ワークショップの開催：様々な座組、テーマで女性の働きやすさについて悩みや意見を共有しました。

- 長野市長・長野県知事への提言：既存制度のさらなる拡充や周知、企業や商工会議所との連携について提言を行いました。
- 応援宣言の発表：国際女性デーにあわせて、長野県知事、長野市長とともに「働くすべての女性を応援します」という宣言を発表しました。

これらの活動の結果、会員企業の経営者・管理職、女性社員、行政組織、商工会議所内のそれぞれで能動的なムーブメントが働きだすようになりました。

女性がワクワク幸せに働ける社会をめざして

商工会議所のネットワークを活かし、女性人材のロールモデルを地域ぐるみで推進し、みんなで一緒に女性がワクワク幸せに働ける社会をめざして活動していきたいと考えています。そして、NAGANO働く女性会議のような取り組みを全国に発信し、それぞれの地域で異なる課題を共有し、成功事例を学び合い、互いに手を取り合うことでより大きなムーブメントを生み出していきたいです。

Ⅱ . パネリスト発表

1. 榎原商工会議所女性活躍への取り組みと企業としての取り組み

～健康経営・相談できる職場環境～

原田 杏子

榎原商工会議所 女性経営者ビジネス研究会について

現在、女性経営者は全国的に増加傾向にあるものの、ライフスタイルの影響により今後も経営が続けられるか不安など様々な悩みや課題を抱えています。そこで、女性経営者が集い、ビジネス発展と地域経済の活性化に貢献することを目的として設立されたのが「女性経営者ビジネス研究会」です。女性が持つ独自の視点や能力をビジネスに最大限活かし、さらに高めていくためのプラットフォームを提供しています。活動内容としては、女性経営者のネットワーク強化、セミナー・研修会の開催などを行い、社会の発展に寄与し、女性経営者の成長や幅広い人脈づくり、社会参画を支援しています。



企業としての先進的な取り組み

五條メディカル(株)は2020年に設立され、再生医療・高度生殖医療分野などの専門物流に社会インフラとして対応するサービスを提供しています。

安心・安全なサービスを提供するために何よりも大切なのは従業員の心と身体の健康です。

- 専門部署の設置：健康増進幸福創造部・健康経営アドバイザー・産業医等を設置し、従業員の心と身体の健康について真剣に考える経営を行っています。
- 具体的な支援策：ラジオ体操、置き型社食によるバランスの良い食事や水素水の提供、リフレッシュのための休憩スペースの設置などを行っています。

こうした取り組みが、人を大切にする文化を育み、社員が自分らしく能力を発揮できる職場づくりに繋がっています。その結果、健康経営優良法人（中小規模法人部門（ブライツ500））という全国500社の中の1社に3年連続で選ばれました。

2. 地方銀行の取り組み

森本 知加

自身のキャリアと女性活躍推進

私が入行した2005年当時は、女性は主に窓口業務、男性は外回り営業である渉外業務に就いていました。しかし4年目に女性として初めての渉外に配属され、結婚・出産・子育てを経て、現在は営業店の次長をしています。

(株)南都銀行は奈良県を主な事業基盤とする地方銀行で、中期経営計画の柱の一つに人材の創出を掲げ、特に女性活躍については3年後の2028年に女性管理職比率20%という目標を設定し、環境整備を進めているところです。



ワーク・ライフ・バランス実現に向けた制度の実現

当行グループは、「誰もが働きやすい環境整備」を重要課題と捉え、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた制度の拡充を継続的に行っています。

- 休暇制度の拡充：以前は年1回だった5日間の連続休暇に加え、新たに5日間のリフレッシュ休暇が新設されました。さらに、育児・介護などの目的で取得可能な積立休暇も新設されました。
- 柔軟な働き方の導入：フレックスタイム制度の拡充により、趣味や習い事、子どもの授業参観や運動会にも参加しやすくなりました。
- 子育て・介護支援の強化：短時間勤務制度やはぐくみ休暇の取得対象を、子どもが小学校入学前から中学校入学までに拡大しました。はぐくみ休暇は従来、子の看護の際に利用できましたが、今年度からは子どもの行事参加にも利用できるようになりました。また、家族を介護するための介護休暇や、介護休職制度なども取り入れています。

これらの制度の充実により、プライベートの充実や、育児・介護との両立など多様な働き方が実現しており、結婚イコール退職ではなく、実際に制度を利用して仕事を続けていく先輩行員を間近で見ていることで、女性行員の仕事への不満はなくなっています。

3. 男性リーダーによる女性活躍推進への想いと取り組み

佐藤 雅大

経営のモットー

佐藤薬品工業(株)は、医薬品受託製造の国内トップクラスの企業として、橿原市を拠点に医薬品の製造を行っています。私の経営のモットーは、創業者をはじめとするOB・OG、現役社員、そしてそのご家族や社外ステークホルダーの皆様「安心」していただく事業経営を行うことです。「社員たちが在っての私、私が在っての社員たち」という互いを尊重する姿勢を大切にしています。



子育て支援、男性育休への取り組み

- 事業所内託児所「Satoにここにこ園」：2014年に事業所内に開設し、産前産後・育児休暇を経て復帰した社員が多数利用しています。

- 働き方の多様化：時短勤務や残業免除を、法定以上の小学校卒業までに引き上げました。
- 男性育休推進：社内報などを通じて育休取得者へのインタビュー記事を全社員に共有し、男性が育休を取得しやすい雰囲気づくりを行っています。

社員向けフェムケアセミナーの実施

女性社員を対象に、健康で長く働くための会社づくりの一環として、専門家による月経やセルフケアに関するセミナーを実施しました。また、男性社員への女性特有の健康課題の理解促進についても研修計画を立案しているところです。

若手活性化委員会「わくわく向上委員会」発足

企業変革に必要な人材やリーダーの育成をめざし、自由な発想で新規提案を行う社内のプロジェクトチームを発足しました。「自分たちの会社は自分たちで作る」という考えのもと、新たな休暇制度の実現やSNS発信力強化施策などを提案し、実際に導入されています。

今後の目標

一般事業主行動計画に基づき、2028年度までに女性管理職比率を12%に引き上げること、また男性育児休暇取得率15%の達成を掲げています。男性育児休暇取得率は既に20%を超えるなど計画以上の進展を見せており、現在は目標の再設定とともに、男女問わず管理職をめざすためのモチベーション作りと環境整備に一層注力していく考えです。

Ⅲ. トークセッション

奈良県が女性就業率最下位であることへの課題と向き合う

小安 奈良県の女性就業率は全国47位という事実にどう向き合うべきでしょうか。

原田 奈良も長野と同様、大阪などの近隣都市へ働きに出る若い方が多いのだと思います。奈良には優秀な女性が多いですが、大阪と比べて賃金が低く、その条件で心身に無理をしてまで働きたいか、と感じている方は多いはずですよ。

森本 私の入行当時は寿退社が当たり前でしたが、今は短時間勤務を利用して「共働きが当然」と考える若い世代が確実に増えています。制度が整えば、奈良の就業率も必ず上がっていくという期待感があります。

佐藤 奈良はベッドタウンとして専業主婦層が厚いこと、また貯蓄額が全国3位と高く、経済的なゆとりがあることも影響しているかもしれません。

塚田 今日登壇されている皆さんは比較的大きな企業ですが、日本企業の99.7%を占める中小企業では、これほど手厚いケアは困難なのが現実です。大企業がリードしつつ、行政や商工会議所が中小企業を支えることが急務ではないでしょうか。

小安 今感じている「壁」はありますか。

森本 ロールモデルが不足していることです。制度があっても、利用ができない、しづらいという声が男女問わずあります。私は管理職として、自ら授業参観のために休みを取り、部下の男性たちにも取得を促しています。



- 佐藤** 社内アンケートでは、女性社員は責任やリーダーシップに強いプレッシャーを感じ、管理職になるのが不安だ、という声が出ました。
- 塚田** 一人ひとり状況は違います。その人が向いていると思うなら、「どのような環境なら管理職ができるか」を個別に話し合うのが一番です。
- 原田** 私はまず「前向きな価値転換」が不可欠だと感じています。例えば出産や育児によるブランクを、会社側が「未来を導くリーダーシップを学ぶための実践訓練」とポジティブに捉え直すという受け入れ態勢を橿原市全体で作っていきたいです。社員が「ここは自分の居場所だ」という安心感を持てる場所を、行政の知恵も借りながら構築したいです。
- 小安** 男性も同じく、育児休暇取得後に職場に戻った際の価値転換が必要です。育児で培われるコミュニケーション力や忍耐力に価値を見出すメッセージを行政が発信し、義務としての制度ではなく、人生を豊かにする「付加価値ある活動」だと社会全体で定義し直せると良いですね。長野県の女性たちが自ら声を上げ、行政や経済団体を巻き込んだように、橿原市や奈良県においても、まずは私たち自身が発案、発言し、企業や行政が連携することが重要です。

地域全体での支援の必要性

- 小安** 橿原市には女性経営者の会はありますが、働く女性のネットワークがないことについて、具体的にどのようなことが実現可能でしょうか。
- 原田** 経営者に限らず、現場の女性や専業主婦の方々など、多様な世代・立場の女性たちが対話できる機会があれば素晴らしいと思います。
- 佐藤** 発信が苦手な方でも意見を出しやすいよう、まずは社内で女性リーダーを発掘する土壌を整えたいです。さらには、そうしたリーダーたちが社外の多様な方々と交流し、共に環境を改善していける大きなムーブメントを地域全体で起こしていきたいですね。
- 小安** 企業間の連携も重要です。本日登壇されている3社の知見を共有し、橿原・奈良全体で学び合うネットワークがあれば素敵ですね。
- 塚田** 他者との対話を通じて「自分は何者か」を再確認することが自己実現に繋がります。商工会議所は「人生の応援団」として寄り添い、社会を良くする一助になりたい。ぜひ橿原市で「働く女性会議」を実現させましょう。
- 小安** 自社にロールモデルがいなくても、他社の女性の姿を見て勇気をもらうこともあります。こうしたネットワークを各地に広げたいですね。
- 塚田** 客席にいらっしゃる橿原市長にも一言いただきたいです。
- 亀田市長** 心に響くお話をありがとうございます。「日本女性会議」という大会名ではありますが、女性だけではなく「人間活躍」することが大切なのだと改めて感じました。女性の社会進出と同時に、男性の家庭進出も不可欠です。誰にとっても働きやすい環境を作るために、企業の皆様や商工会議所としっかりと連携し、積極的に取り組んでいきます。女性会議の開催をゴールとせず、その先を見据えて頑張っていきたい



です。

小安 奈良の女性就業率は現在最下位ですが、これはV字回復するしかないということです。私たち一人ではなく連帯して声を上げ、誰もが自分らしく生きられる社会を作る一歩にしましょう。

分科会8 提言

日本女性会議
2025 橿原

【はたらく女性 輝く会議】提言

誰もが輝く社会を実現していくために…

- 多様で柔軟な働き方の推進
- 組織・社会の構造的課題への対応が不可欠

橿原からムーブメント「誰もが働きやすい未来」へ

日本女性会議2025橿原大会レガシー事業

日本女性会議
2025 橿原

仮称) 橿原市で叶える！ 私らしく生きる応援事業
～未来を創る 女性活躍×イノベーション推進プロジェクト～

【目的】
誰もが希望どおりの生き方・働き方を叶えられるウェルビーイングで持続可能な地域社会を目指す

【概要】

- ・キャリアアップ研修
- ・働きやすい職場に向けたワークショップ
- ・地域リーダー養成講座 など

奈良県

橿原市

橿原商工会議所

民間企業
金融機関

奈良労働局
ハローワーク

NPO法人
市民団体

教育機関
高校・大学

橿原市では分科会3及び分科会8の提言を受け、「誰もが働きやすい未来」へ向けて、今後も事業に取り組みます。